

待降節第 2 主日 12 月 5 日 分かち合い

今日は待降節第 2 主日です。福音書の中で、キリストの先駆者洗礼者ヨハネがヨルダン川で、「主が来られる。そのときお前たちは心の準備をして悔い改めの洗礼を受けなさい」と人々に呼びかけました。

今日のみ言葉の主演は祭司ザカリアの子、洗礼者ヨハネになっています。彼は来るべき救い主キリストの現れを示そうとする同時に、人々に罪の赦しを得させるために、ヨルダン川沿いの地方に下りて行き、悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。

さて、「悔い改め」とはどのようなことでしょうか。ある方は「今まで失敗があつたりすると、しきりに人のせいにしていたが、自分のせいにするようになった」とおっしゃいました。これは良いことです。なぜなら、多くの人は傲慢だからです。傲慢の人の特徴は、いつも自分は正しいと思い込んでいることです。でも、神様を信じるようになると、いかに自分が罪人で、至らない者だということに気

づきます。したがって今までは何か失敗すると、盛^{さか}んに相手のせいにしたり、とりつくろったり、開きなおったりしていました。それが洗礼を受けて、キリストと出会うことにより、自分の至らなさを素直に認め、反省するようになった、ということです。

でも、皆さん、悔い改めとは単に反省するようになったとか、自分のせいにするようになったということだけで良いのでしょうか。それだけでは足りないでしょう。神の前に悔い改めるということは、本来もっとダイナミックなもので、自分が根本から変わってしまう、心の変身がもたらさせるものだと思います。自分へのこだわりを捨て、心を空にし、神様と人を大きく受け入れる者に変身することです。また人との関わりに積極的に、おおらかに、新しい人間に変身することです。これは、今日語られたみ言葉の意味ではないかと思います。

「谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道は真っ直ぐに、でこぼこの道は平らになる」。

このみ言葉を聞きますと、何がこの変身を巻き起こすのであろうか。今日の福音書の中で、洗礼者ヨハネは主人公になりましたが、この変身を巻き起こすのはヨハネでしょうか。ヨハネは一生懸命「悔い改め」を人々に呼びかけて、彼らに洗礼を授けました。しかし、「荒れ野で叫ぶ者」、人間の心を変身させる者はやはり洗礼者ヨハネではなく、神のみ言葉です。2節に「神のみ言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに下った」とあり、この神の言葉がヨハネを通して自然に働きかけるのです。谷を埋め、山を低くし、道をまっすぐ平らにするのは神のみ言葉です。洗礼者ヨハネを通して語られた神のみ言葉、「主の道を整え、その道筋を真っ直ぐにせよ」という言葉が山や谷を変えて、道を築かせたのです。こうして、神の救い、主イエスを通る道が完成されます。

待降節に当たり、私たちは一層主イエスに向き直り、日々の行いを悔い改め、主イエスにより近く変身し、主イエスご自身の存在を毎日の生活で指し示す第 2 のヨハネになれるよう、この意向を神様に捧げましょう。